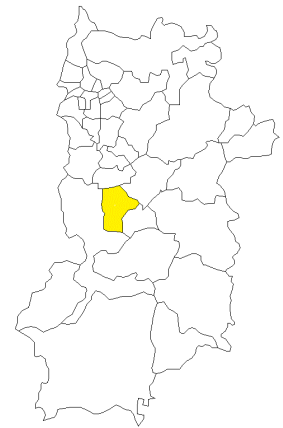


○「遊休農地の発生防止・農地集積への取り組み」

(奈良県・下市町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約
化

遊休農地の
発生防止・
解消



1 地区の特徴・状況、課題

○下市町は、奈良県のほぼ中央に位置し、面積の8割を山林が占めており、山間部地域では平地が少なく収益性が低い為、農業の維持が困難な農家が増加しています。その中で、中山間地域の丘陵地等を活用した果樹栽培等の農業は、下市町の基幹産業となっている。

○町内全域において、農業就業人口の減少や、高齢化により農地が後継者に継承されず、一部が遊休農地となり増加傾向にあり課題となっている。



2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○農業委員・農地利用最適化推進委員が合同で農地パトロールを行い、また日頃から農地の耕作状況の確認を行い、その他には戸別訪問等で遊休農地が発生しないよう取り組んでいる。

○農地中間管理機構と連携し、農地の集積・集約化を行うため、遊休農地化する前に担い手につなげるようにしている。

3 活動（取組と工夫）の結果

○一般法人が農地を借り受け薬用作物シャクヤク等を栽培し収穫するだけでなく、開花時期にイベント等を開催するなど、地域の新たな観光資源として利用している。

○H30年度は農地中間管理機構を通して1.5haの農地が利用集積された。